

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年11月10日
【四半期会計期間】	第23期第2四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	バーチャレクス・ホールディングス株式会社
【英訳名】	Virtualex Holdings, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 丸山 栄樹
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号
【電話番号】	03(3578)5300
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 黒田 勝
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号
【電話番号】	03(3578)5300
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 黒田 勝
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第22期 第2四半期 連結累計期間	第23期 第2四半期 連結累計期間	第22期
会計期間	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2020年4月1日 至2020年9月30日	自2019年4月1日 至2020年3月31日
売上高 (千円)	2,903,309	2,584,681	5,948,854
経常損失 ( ) (千円)	195,690	14,439	191,449
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純損失 ( ) (千円)	464,691	25,041	519,324
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	464,543	26,487	519,821
純資産額 (千円)	494,385	413,087	439,575
総資産額 (千円)	2,245,978	2,274,264	2,336,655
1株当たり四半期 (当期) 純損失 ( ) (円)	159.94	8.70	179.59
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	22.0	18.2	18.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	162,156	222,766	167,058
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	128,654	85,386	183,033
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	68,099	23,879	243,583
現金及び現金同等物の四半期末 (期末) 残高 (千円)	92,536	369,999	208,740

回次	第22期 第2四半期 連結会計期間	第23期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2019年7月1日 至2019年9月30日	自2020年7月1日 至2020年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株 当たり四半期純損失 ( ) (円)	98.69	27.35

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により緊急事態宣言が発出され、多くの企業が事業活動を制限され、国内外の需要は大幅に悪化しました。経済活動の段階的な再開に伴い、徐々に足元の景気は持ち直しの動きがみられるものの、感染拡大の第2波への警戒感は根強く、極めて不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループはテクノロジーを基盤として、バーチャレクス・コンサルティングはCRMをビジネスのドメインに、タイムインターメディアはWeb、文教・教育、AIなどをビジネスのフィールドとして、当社グループの持つコンサルティング、IT、アウトソーシングのノウハウを活用したトータルな支援を行ってきました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,584,681千円（前年同四半期11.0%減）、営業損失26,267千円（前年同四半期は営業損失198,876千円）、経常損失14,439千円（前年同四半期は経常損失195,690千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失25,041千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失464,691千円）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりです。

IT&コンサルティング事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により営業活動が制限され、売上は前年同期比で減少したものの、前連結累計期間に発生した株式会社タイムインターメディアの大型システム開発案件における品質トラブルは当四半期に引きずることなく、利益面では前年同期比で大幅に改善しました。その結果売上高は1,298,011千円（前年同四半期14.6%減）、セグメント利益は154,624千円（前年同四半期275.7%増）となりました。

アウトソーシング事業は、前期末で予定していた一部の案件が終了したことや新型コロナウイルス感染症の影響により一部の案件について縮小がありました。その結果、売上高は1,286,669千円（前年同四半期7.0%減）、セグメント利益は190,151千円（前年同四半期12.3%減）となりました。

##### 財政状態

##### （資産の部）

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末より62,390千円減少し、2,274,264千円となりました。これは主に、前連結会計年度末より、現金及び預金が161,259千円、受取手形及び売掛金が204,860千円減少したこと等によるものであります。

##### （負債の部）

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末より35,903千円減少し、1,861,176千円となりました。これは主に、長期、短期含む借入金が25,467千円増加したものの、買掛金が39,970千円、未払金が31,617千円減少したこと等によるものであります。

##### （純資産の部）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純損失25,041千円を計上したこと等により、前連結会計年度末より26,487千円減少し413,087千円となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前連結会計年度末と比べ161,259千円増加し、四半期末残高は369,999千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得た資金は、222,766千円（前年同期は162,156千円の支出）であります。これは主に、売上債権の減少204,860千円があったことによるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、85,386千円（前年同期は128,654千円の支出）であります。これは主に、無形固定資産の取得による支出58,585千円、投資有価証券の取得による支出32,763千円があったことによるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得た資金は、23,879千円（前年同期は68,099千円の収入）であります。これは主に、短期借入金の減少額300,000千円、長期借入金の返済による支出74,533千円があったものの、長期借入れによる収入400,000円があったことによるものであります。

## (3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額はありません。

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,980,000
計	10,980,000

## 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,943,153	2,943,453	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数100株
計	2,943,153	2,943,453	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2020年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

## (2)【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	2,943,153	-	598,381	-	301,935

(注) 2020年10月1日から2020年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が300株、資本金及び資本準備金がそれぞれ78千円増加しております。

## (5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数 に対する所有株式数の 割合(%)
シンプレクス株式会社	東京都港区虎ノ門1-23-1	438,900	15.25
丸山栄樹	東京都調布市	341,000	11.85
バーチャレクス従業員持株会	東京都港区虎ノ門4-3-13	146,800	5.10
SBSホールディングス株式会社	東京都墨田区太平4-1-3	140,400	4.88
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	134,600	4.68
黒田勝	東京都調布市	90,000	3.13
ジャパンベストレスキューシステム株式会社	愛知県名古屋市中区錦1-10-20	79,600	2.77
楽天証券株式会社	東京都港区南青山2-6-21	51,300	1.78
丸山勇人	東京都多摩市	50,600	1.76
佐藤孝幸	横浜市保土ヶ谷区	42,370	1.47
計	-	1,515,570	52.65

(注) 当社は自己株式64,500株を保有しておりますが、上記「大株主の状況」から除いております。

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 64,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,877,900	28,779	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 753	-	-
発行済株式総数	2,943,153	-	-
総株主の議決権	-	28,779	-

## 【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
バーチャレクス・ホールディングス株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号	64,500	-	64,500	2.19
計	-	64,500	-	64,500	2.19

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	208,740	369,999
受取手形及び売掛金	847,257	642,397
開発事業未収入金	153,018	72,423
仕掛品	16,785	45,390
前払費用	94,472	91,576
その他	56,951	53,526
流動資産合計	1,377,225	1,275,312
固定資産		
有形固定資産	104,511	95,117
無形固定資産		
ソフトウェア	101,180	117,411
ソフトウェア仮勘定	16,888	26,469
その他	3,820	3,820
無形固定資産合計	121,890	147,701
投資その他の資産		
投資有価証券	490,931	506,517
その他	242,096	249,615
投資その他の資産合計	733,028	756,132
固定資産合計	959,430	998,952
資産合計	2,336,655	2,274,264
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	130,174	90,204
短期借入金	550,000	250,000
1年内返済予定の長期借入金	125,182	117,960
未払金	185,524	153,906
未払費用	42,017	55,122
リース債務	1,807	1,807
未払法人税等	23,129	13,415
未払消費税等	105,517	85,333
未払事業所税	6,262	3,606
前受金	43,370	89,391
預り金	46,639	47,459
賞与引当金	146,745	155,346
受注損失引当金	24,227	-
その他	82	75
流動負債合計	1,430,682	1,063,630
固定負債		
長期借入金	443,225	775,914
その他	23,173	21,632
固定負債合計	466,398	797,546
負債合計	1,897,080	1,861,176

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	598,381	598,381
資本剰余金	301,935	301,935
利益剰余金	413,341	438,383
自己株式	49,478	49,478
株主資本合計	437,497	412,455
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,077	632
その他の包括利益累計額合計	2,077	632
純資産合計	439,575	413,087
負債純資産合計	2,336,655	2,274,264

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 千円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 4 月 1 日 至 2019年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2020年 4 月 1 日 至 2020年 9 月 30 日)
売上高	2,903,309	2,584,681
売上原価	2,429,578	2,067,527
売上総利益	473,730	517,153
販売費及び一般管理費	672,606	543,421
営業損失 ( )	198,876	26,267
営業外収益		
受取利息及び配当金	79	72
助成金収入	4,816	5,385
投資事業組合運用益	3,616	5,829
役員報酬返納額	-	4,445
その他	554	1,106
営業外収益合計	9,066	16,839
営業外費用		
支払利息	3,212	3,364
支払手数料	1,442	1,442
為替差損	223	205
投資事業組合運用損	1,002	-
営業外費用合計	5,880	5,011
経常損失 ( )	195,690	14,439
特別損失		
減損損失	225,019	-
特別損失合計	225,019	-
税金等調整前四半期純損失 ( )	420,709	14,439
法人税、住民税及び事業税	3,202	10,606
法人税等調整額	40,779	4
法人税等合計	43,981	10,601
四半期純損失 ( )	464,691	25,041
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失 ( )	464,691	25,041

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純損失( )	464,691	25,041
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	147	1,445
その他の包括利益合計	147	1,445
四半期包括利益	464,543	26,487
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	464,543	26,487
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	420,709	14,439
減価償却費	68,817	45,658
減損損失	225,019	-
資産除去費用	1,131	511
のれん償却額	14,417	-
賞与引当金の増減額( は減少)	10,557	8,601
受注損失引当金の増減額( は減少)	62,244	24,227
受取利息及び受取配当金	79	72
支払利息	3,212	3,364
支払手数料	1,442	1,442
為替差損益( は益)	223	205
投資事業組合運用損益( は益)	2,613	5,829
売上債権の増減額( は増加)	188,322	204,860
開発事業未収入金の増減額( は増加)	80,233	80,595
たな卸資産の増減額( は増加)	36,064	28,605
前払費用の増減額( は増加)	46,605	2,895
仕入債務の増減額( は減少)	97,743	39,970
未払費用の増減額( は減少)	5,730	10,417
未払消費税等の増減額( は減少)	44,585	20,183
前受金の増減額( は減少)	61,667	46,020
預り金の増減額( は減少)	17,603	820
その他	53,268	45,274
小計	117,169	226,790
利息及び配当金の受取額	12	0
利息の支払額	3,245	3,332
手数料の支払額	1,442	1,442
法人税等の支払額	45,207	21,055
法人税等の還付額	4,893	21,805
営業活動によるキャッシュ・フロー	162,156	222,766
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1,778	3,854
無形固定資産の取得による支出	38,765	58,585
投資有価証券の取得による支出	58,986	32,763
投資有価証券の償還による収入	-	20,924
貸付けによる支出	-	1,384
敷金及び保証金の差入による支出	28,974	9,842
敷金及び保証金の回収による収入	-	270
保険積立金の積立による支出	149	149
投資活動によるキャッシュ・フロー	128,654	85,386
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	182,000	300,000
長期借入れによる収入	-	400,000
長期借入金の返済による支出	83,867	74,533
割賦債務の返済による支出	-	683
ファイナンス・リース債務の返済による支出	903	903
株式の発行による収入	572	-
自己株式の取得による支出	29,702	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	68,099	23,879
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	222,712	161,259
現金及び現金同等物の期首残高	315,249	208,740
現金及び現金同等物の四半期末残高	92,536	369,999

## 【注記事項】

## (追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当社グループは、入手可能な情報に基づき、繰延税金資産の回収可能性について会計上の見積りの検討を行っておりますが、前連結会計年度末の仮定について、重要な変更は行っていません。

なお、当該会計上の見積りは現時点における最善の見積りではあるものの、今後の新型コロナウイルス感染症の状況や、その経済への影響が変化した場合には、損益に影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
役員報酬	89,160千円	81,214千円
給料	138,495	159,528
賃借料	60,106	66,582
賞与引当金繰入額	21,539	25,788

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	92,536千円	369,999千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	92,536	369,999

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

## 1. 配当金支払額

該当事項はありません。

## 2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

## 1. 配当金支払額

該当事項はありません。

## 2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	IT&コンサルティング事業	アウトソーシング事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,519,585	1,383,724	2,903,309	2,903,309
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-
計	1,519,585	1,383,724	2,903,309	2,903,309
セグメント利益	41,154	216,862	258,017	258,017

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	258,017
全社費用(注)	456,893
四半期連結損益計算書の営業損失	198,876

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「IT&コンサルティング事業」セグメントにおいて、株式会社タイムインターメディアののれんの減損損失等の発生により、当第2四半期連結累計期間において減損損失225百万円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「IT&コンサルティング事業」セグメントにおいて、株式会社タイムインターメディアの株式について株式価値の回復可能性を検討してきましたが、回復に相当の期間を要すると判断したため、同社株式取得時に計上したのれんの未償却残高の全額211百万円を、当第2四半期連結累計期間において減損処理を行いました。

なお、上記(固定資産に係る重要な減損損失)の中に当該のれんの減損損失も含めて記載しております。

当第2四半期連結累計期間（自2020年4月1日至2020年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			合計
	IT&コンサルティング事業	アウトソーシング事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,298,011	1,286,669	2,584,681	2,584,681
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	1,298,011	1,286,669	2,584,681	2,584,681
セグメント利益	154,624	190,151	344,776	344,776

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	344,776
全社費用（注）	371,043
四半期連結損益計算書の営業損失	26,267

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 （自2019年4月1日 至2019年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自2020年4月1日 至2020年9月30日）
(1) 1株当たり四半期純損失（ ） （算定上の基礎）	159円94銭	8円70銭
親会社株主に帰属する四半期純損失（ ） （千円）	464,691	25,041
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失（ ）（千円）	464,691	25,041
普通株式の期中平均株式数（株）	2,905,348	2,878,653
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 （算定上の基礎）	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 （千円）	-	-
普通株式増加数（株）	-	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

**第二部【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月9日

バーチャレクス・ホールディングス株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柏木 忠 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 島津 慎一郎 印

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているバーチャレクス・ホールディングス株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、バーチャレクス・ホールディングス株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において

四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。